



汽水域に生息するがヌマガレイよりやや塩分濃度の高い場所を好む。北潟湖産 全長：約25cm

カレイ科 ヌマガレイ属

【全長】50cm

イシガレイ

学名： *Platichthys bicoloratus*

分布域

北海道から九州に分布する。

生息域

主に沿岸部の砂底に生息する。
幼魚は汽水域にも侵入する。



茶褐色に白色・黒色の小斑点が散在する。

両眼は体の右側にある。体側に鱗はなく有眼側面に2列～3列の石状の突起(骨質盤)が並ぶ。主に海の沿岸部砂泥底に生息し、汽水湖や河口部(汽水域)にも侵入する。小型個体は、主に甲殻類や底生動物を食べ、体長21cm以上になるとハゼ類などの小型の底生魚を食べる。産卵期は11～4月とされ、沿岸部の砂泥底で産卵しその卵は浮遊する。孵化後体長10～13mmで左眼が右側に移動し底生生活にはいる。

水槽での飼育は、比較的丈夫で可能。飼育には海水を用いた方が調子が良い。餌は活きた甲殻類(エビの仲間)やゴカイを与える。水槽内でもよく活動する。他種との混泳にも問題ない。

在来種

周縁魚

※ ヌマガレイと生息環境はよく似るが、本種の方が塩分濃度が高い場所を好む様に思われる。自然界でも、稀にヌマガレイとの雑種が見つかるそうです。一度視てみたいものです。